

【因果応報の法則⑩】

こんにちは。アークテックコム株式会社で、翻訳業とマニュアル作成を行っています。豊原 信です。



Tel : 050-6864-6201
Fax : 050-6864-6202
E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

「因果応報の法則」の善い因作り

今月は、「因果応報の法則」の因作りと、恒例の「勝手応援メッセージ」をお送りします。

善い因とは

心の作用に思いがあります。心で思うこと、即ち、考えることがすべての始まりと言われています。善いことを思い考えることが、善い因作りです。物事を構成するすべての因を善い因にすると、失敗ということはありえません。まず、お釈迦様の心についての表現を見てみましょう。

この世界は心に導かれ
心に引きずられ
心の支配を受けている
迷いの心によって
悩みに満ちた世間が現れる
すべてのものは
みな心を先とし
心を主とし
心から 成っている
汚れた心でものを言い
また身で行うと
苦しみがその人に従うのは
ちょうど牽く牛に車が従うようなものである
しかし
もし善い心でものを言い
また身で行うと

楽しみがその人に従うのは
ちょうど影が形に添うようなものである
悪い行いをする人は
その悪の報いを受けて苦しみ
善い行いをする人は
その善の報いを受けて楽しむ
この心が濁ると
その道は平らでなくなり
そのために倒れなければならない
また
心が清らかであるならば
その道は平らになり
安らかになる
身と心との清らかさを楽しむものは
悪魔の網を破って仏の大地を歩むものである
心の静かな人は安らかさを得て
ますます努めて夜も昼も心を修めるであろう

と説明されています。心を清らかに静かにする因を作ると、結果は好転させられると言っています。

無限のスピリッツと善い因

次に、宇宙の意志、即ち宇宙の無限の生命のスピリッツに対する考え方を見てみます。自分の思いを、宇宙の意志や無限の生命のスピリッツに対して、同調させることで、大きな力の啓示を得られる

という考え方です。これは1897年にアメリカで出版されたラルフ・ウォルドー・トラインの「In Tune with the Infinite」にあります。あのアメリカン・ドリームの考え方の素が著されています。その中のひとつ「自分自身の魂に忠実であれ」という記述を紹介し

ます。
真理はわたしたちのなかにある
あなたが何を信じるにしても、真理は外からやってくるのではない
わたしたちすべてのなかに
いちばん大切な中心がある
そこにすべての真理が満ちている

これは、あなたの魂を通じて、宇宙の意志が語り掛けてくるということです。

善い因の作り方

善い因を作るには、自分の心が純粹で美しい思いになっているかどうかを反省し、チェックしないといけません。これを怠るとすぐに、エゴと煩惱でいっぱいになります。このことを1902年にイギリスのジェームズ・アレンが「原因と結果の法則」で著しています。

人間の心は庭のようなものです。それは知的に耕されることもあれば、野放しにされることもあります

が、そこからはどちらの場合にも必ず何かが生えてきます。もしあなたが、自分の庭に美しい草花の種を蒔かなかつたら、そこにはやがて雑草の種が無数に落ち、雑草のみが生い茂ることになります。

すぐれた園芸家は、庭を耕し、雑草を取除き、美しい草花の種を蒔き、それを育みつづけます。同様に、私たちも、もしすばらしい人生を生きたいのなら、自分の心の庭を掘り起こし、そこから不純な誤った思いを一掃し、その後には清らかな正しい思いを植えつけ、それを育みつづけてはなりません。

正しい思いを選んで、巡らし続けることで、私たちは気高い、崇高な人間へと上昇することができます。同時に、誤った思いを選んで、巡らし続けると、獣のような人間へと落下することもできるのです。心の中に蒔かれた思いという種のすべてが、それ自身と同種類のものを生み出します。それは遅かれ早かれ、行いとして花開き、やがては環境という実を結ぶこととなります。善い思いは善い実を結び、悪い思いは悪い実を結びます。

このように古今東西、人種文化に関係なく、善い因作りが、幸せな人生を送るには、普遍的な課題だということが見えてきます。

今月の応援メッセージです。

1人ひとりの潜在能力を最大限に引き出し活躍させる。これも、リーダーにとって大切な役目です。「長所を活かす」という言い

方もありますが、あなたのお役目は、そんな単純なものでは無く、「1人ひとりの潜在能力を最大限に引き出し活躍させる」という神様に挑戦するような役目です。

1人ひとりの潜在能力を最大限に引き出し活躍させる。簡単には出来ません、1人ひとりを本人以上に知る必要があります。そのために、深く、深く観察する必要があります。科学者が自然の摂理を探し出すが如くです。

1人ひとりの潜在能力を知った上で、これを顕在化させる必要があります。これも一筋縄では行きません、ただ顕在化させるだけでも難しい上に、あなたの会社の目指す方向に沿って顕在化させる必要があるのです。本人にとっても、会社にとっても不必要な潜在能力を顕在化させても意味がないのです。

1人ひとりの潜在能力を見抜き、未来進行形でその能力が発展されることを本人と一緒にイメージし、実際に使えるように訓練していく。そして実際に使って、成果が出ることを確認し、本人にも分かるように、客観的に評価をし、共に出した成果を喜び、さらに、どの方向に能力を伸ばしていくかを定めて、訓練を重ねていく。

1人ひとりの潜在能力を最大限に引き出し活躍させる。その中でも、最も重要なのは、1人ひとりを好きになることです。1人ひと

りを好きになるから、興味がわき、本人以上に潜在能力を見ぬことが出来る。1人ひとりを好きになるから、その人の活躍を本人以上にワクワクしてイメージ出来るようになる。

そして、1人ひとりを好きになる慈愛に満ちた、あなたの思いが、相手に伝わり、相手の心を動かしていく。そんな環境の中で、1人ひとりの潜在能力が開くのです。

善い因を作るには、人やものを思いやる優しさ、即ち愛が必要です。考え方が愛に満ちていれば、熱意も愛がいっぱいです。そうすると、宇宙の無限のスピリットからパワーが能力として提供されるでしょう。

【人生の成果／仕事の成果】 =
【考え方】 × 【熱意】 × 【能力】

【考え方】は-100~+100
【熱意】【能力】は0~+100

豊原 信